

TAJIMI TOHTO LC

明日に向かって

1995

第4号

発行日 平成7年6月23日
 発行 多治見陶都ライオンズクラブ
 責任者 松本晄一
 事務所 多治見市豊岡町3丁目29番地
 TEL<0572>25-8920
 FAX<0572>24-0778

ライオンズクラブと私

1995年度 会長 小 芝 邦 章

我が多治見陶都ライオンズクラブは、3年の歴史を数え、やがて新年度・4年目にかかろうとしております。

この重要な時期に会長という大役を仰せつかり、自分自身「困ったな」というのが本音のところですが、やれるだけやってみるかとも考えております。

さて私とライオンズクラブとの関わりは、私の父を語ることによって説明できるかと思いません。

昭和35年多治見ライオンズクラブが結成された時のチャーターメンバーの一人として、父の姿がありました。初代会計として何もわからぬまま、のめり込んでいきました。また会長として多忙な日々を過ごした年もありました。そんな父の姿を見て育ったためか、ライオンズクラブには他の団体とは違った思いがありました。父は病にかかり、多治見ライオンズクラブを退会しましたが、父からライオンズへの思いは折りにふれ聞かされておりました。

父の退会后、多治見ライオンズクラブのメンバーの方々より、入会のお誘いをいただきましたが、私自身病のため固辞させていただいておりました。

数年後、新クラブの結成ということで再度お勧めいただき、病も快方に向かっていましたの

で、新クラブ結成に参加させていただきました。おかげ様にて多数の友人・知人に恵まれ、多治見陶都ライオンズクラブがますます好きになってきました。

そんなクラブのために精一杯努力する所存です。

1995年度のクラブ運営・奉仕活動につきましては、歴代会長の方針を継続しながら、私なりの個性が出せれば、とお願いいたしております。一年限りの職務でありますので、好きにやってよいと言われますが「継続は力なり」の言葉がありますように、マンネリ化（4年ではまだマンネリとは言いませんか……）に陥らないよう奉仕活動等継承していきたくと考えます。新委員会の設置・5周年を目前とした年度ということで、特別委員会（5周年準備委員会）を作らせていただきました。それぞれの委員会の担当副会長・担当理事さんを交え、各委員長・委員の方々のご協力を切にお願いする次第です。

例会運営につきましては、ライオンズクラブの歌、ライオンズヒムの完全修得を目指して、例会の折り全歌詞を歌います。

締める時は締めて、また楽しむ時は大いに楽しむ、若さあふれる和気あいあいの例会にしたいと考えております。

メンバーご一同のご支援をお願いします。

クラブ幹事予定者として

1995年度 幹事 水野 忠 男

緑あざやかな、かつ花の季節となり、つい最近迄はどこかのテレビを見てもオウム真理教の報道ばかりで、うんざりしていた今日この頃です。

クラブも4年目に向けてメンバー各位に対してご無理も申して居ります。

各委員の計画案、予算案作りに感謝し、今は最終詰の段階に来て居ります。

多治見陶都ライオンズクラブに私の様な者が、幹事として勤まるかどうか、又、新会長L.小芝に迷惑をかけるのでは……と不安でたまりません。

三代続けて素晴らしい活躍の先輩幹事の職責に一歩でも近づきたいと思い、何とか任務を遂行していきたいと思ひます。

次期ライオンズ国際協会334-B地区スローガン“友愛と奉仕”、“笑顔あふれる街づくり”を大切に考え、新会長L.小芝の元で、各委員会活動をお手伝いさせていただきます。

今年度は新設委員会として5周年準備委員会、公衆安全委員会、この2つの委員会を加えての活動になります。

メンバー各位の意見を尊重し、理事会での副会長、担当理事、各理事の意見等、審議を大切にし、決議していくと共に、継続事業の発展、新事業拡大に勤め、5周年記念に向け最大限の準備に取り組む。

会員相互の友愛・友情を深め出席率の向上、小芝会長を出来る限り補佐し、全会員気持ちよく活動出来る様、努力して参ります。

私は、メンバー全員の友情と友愛を大切に、私自身の出来の悪さを理解し、皆様のご協力をいただき、自らも勉強しながら、頑張ります。ご協力、切にお願い申し上げます。

一年を振り返って

会員委員長 度 会 正 年

ライオンズクラブの委員会の中で唯一、委員、副委員長、委員長と持ち上がり、今年度委員長になった訳ですが、頭も気持ちも準備と言うか知識の無いまま委員会を引き受けてしまい、委員会の皆さんを始め多くの会員の皆様に大変ご迷惑をお掛けした事と思ひます。この場を借りましてお詫び申し上げます。また、力添えして戴きました委員会の皆様には心よりお礼を申し上げます。

今年度委員会の事業計画で、3～4名の新入会員を予定して参りましたが、多数の入会見込者の紹介を戴き、新入会員推薦委員会場で、公正且つ慎重な審査の結果、3名の新入会員を迎える事が出来ました。当クラブも3年目を過ぎようとしていますが、毎年順調に会員増強が出来、現在51名の会員で楽しく和やかなクラブ運営が出来ていると思ひます。今後共、会員の皆様のご協力を心よりお願い致します。

さて、一年を振り返ってと原稿依頼を受けてまず思い浮かぶ事が、会員委員長の手引きと言う冊子を戴き序文を読んだ時、これは大変な委員長を引受けてしまったと思ひました。その序文の内容は《ライオンズクラブの運営において非常に重要な役職に就かれたことを、お祝い申し上げます。今後1年間の貴殿の働きぶりが、貴クラブの成功如何に影響することになり、貴殿の努力によって貴クラブが強化されて、地域社会におけるクラブの地位を固めることになるのです。》と言う文面です。私にこの様な大きな役割りが果たせるかと思ひましたが、新会員の獲得と言う項目で、《新会員は将来の指導者でもあり、会員問題はみんなの責任であるから、会員が協力すべきである。》

この下りを読んで少し気持ちが楽になったことを思い出します。どの委員会もそれぞれ大き

な役割を持ち、独自の企画をたて会員相互の理解と協力を得て、地域社会に奉仕出来ることを願い活動されています。

会員委員会も同じ様に、会員の皆さんの協力で、活力あるクラブを作ることが出来ます。今年度新たに入会されました、L.若尾敬一郎、L.山本達行、L.各務能正の3名は、すでにPTA活動を始め様々な形で奉仕活動をされています。当クラブに入会されても、多くの皆さんと打ち解け委員会活動も積極的に参加されています。今後共、皆さんの活躍を期待しております。

多治見陶都ライオンズクラブが地域の皆さんから歓迎されるクラブとして、奉仕活動及び地域社会の発展に貢献出来ることを願っております。

一年間、有難うございました。

レオ委員会を振り返って

レオ委員長 齋藤允彦

レオクラブ結成15周年に当たる本年度に、レオ委員長という大役を仰せつかって、レオクラブ出身者である私は、何か因縁めいたものを感じずにはいられませんでした。レオを卒業して、早、8年の歳月が過ぎ、当時のメンバーのその全てが入れ替わり、いかにレオ出身者とはいえず、ほとんど初対面の若い青年たちと、どう接していけばよいのか、多少のとまどいはありましたが、前年度委員長のL.加藤彰久のアドバイスを受け、「レオの良き相談相手として、付かず離れず、レオクラブをサポートして行く」との方針の基、レオ委員会をスタートさせました。

当のレオクラブメンバーの諸君は、10数名という少人数で、アクティビティの企画、運営・実行にも何かと困難な状況の中、水野卓弥会長のもと、常に明るく、活発に活動にはげんでおられました。そんな若者たちの姿を見るにつけ、「若者にあらゆる機会を与え、経験をつませることにより、地域のリーダーとしての指導力を

身につけさせていこう」とする「L(Leadership 指導力)E(Experience 経験)O(Opportunity 機会)」LEOプログラムの素晴らしさと大切さを改めて感じずにはいられませんでした。地域青年活動が衰退の一途をたどる今日、逆に行政サイドでは、さかんに生涯学習及び、地域を挙げての街づくりが叫ばれる状況の中、LEOプログラムによる青年の育成は、ライオンズクラブにとっても最も重要なアクティビティの一つだと考えられます。今後とも、こうした素晴らしい青年たちを温かく見守り、バックアップしていただくことを心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、お忙しい中、レオ育成にご尽力下さいました尾関会長、佐藤幹事はじめ、理事の皆様と、L.加藤幸、L.井沢に心よりお礼申し上げ、次期レオ委員長のL.伊藤恒のご活躍をお祈りしつつ、一年間のご報告とさせていただきます。

募金活動と皆勤表彰

教育社会福祉委員長 丹羽輝男

阪神大震災は、一瞬の内に5,000人もの人の命を奪い、住居や交通網、生活のパイプラインを破壊し、文明都市がもろくも崩れて、被災難民が大多数でした。被災者の方々を救う為に、全国的に救援活動が行なわれました。



当クラブも協会を通じて義援金を出しましたが、独自で何か出来ることはないかとの意見で、尾関会長の提案で、街頭募金を行うことを決めました。初めての活動で、戸惑いもありましたが、担当委員の方々に、2日間夜遅くまで準備

してもらい又、街頭募金活動には、寒い中、会員の皆さんの協力で行うことが出来ました。多治見駅前とパロー多治見店の2ヶ所で、多数の方々より募金をいただき、予想を上回る金額が寄せられました。

義援金は、中日新聞多治見支局を通じて、被災地に送らせていただきました。被災者の方々が1日も早く立ち直られる様に願っております。

今年度最後の事業計画で、多治見市と笠原町の中学卒業者に対し、9年間皆出席者に、表彰状並びに記念品(ライオンズマーク入りの時計)を送ることになりました。



初めての事業の為、市教育課、東濃新報の協力をいただきました。各中学校へ行き、校長先生に当クラブからの計画を報告した所、大変感謝されました。これも義務教育課程では、校長として表彰してあげたくても、出来ないのが現状だそうです。当クラブから表彰していただければ、生徒も喜ぶし、在校生の励みになるので、全校生徒の前で表彰してほしいとのことでした。一部の中学校では、校長室で行なった所もあります。卒業式前日のリハーサルの時、各中学校へ一斉に出向いて、会員方々のご協力で、無事終えることが出来ました。

次年度の担当委員の方々に、今年度事業を継続していただければ、有難く思います。



3月10日作文発表会

保健環境保全委員長 正村克巳

多治見市奥村教育長、笠原町奥村教育長、上位入賞の14名中学生、父兄、先生に出席していただき、3月の第一例会の席上で作文コンクールの発表会と表彰式を行いました。

昨年同様に、ライオンズクラブが日頃どのような活動をしているか、ライオンズクラブって何だろうという疑問に少しでも理解してもらえよう例会において、発表会を行いました。

会員の皆様には、この発表会の作品集をお配りしましたので、作品の内容には目を通して頂いたと思います。中学生は環境の悪化には大変懸念しております。彼等の行えることは全体から見ればほんのわずかな事です。環境の悪化を食い止めるには大人の行動が必要です。環境の悪化に目を閉じずに、子供達にいい環境を残してやりたいものです。

編集局便り

新年度は、委員会も新設され増えます。各委員会の活動が、増々活発となり、本会報の紙面の充実を期待しています。

本年度は、皆様ご協力ありがとうございました。

